

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	天本 理恵	職名	准教授	学位	博士 (医学)	九州大学 2012 年
----	-------	----	-----	----	---------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝 (特に葉酸)、生活習慣病 (主に癌、心疾患、加齢性疾患) とミトコンドリア

研 究 課 題
生活習慣病 (主に癌や加齢性疾患) とエネルギーおよび栄養代謝 (ミトコンドリアを中心に) との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。

担 当 授 業 科 目
応用栄養学Ⅰ (2 年後期 栄養学科) 応用栄養学Ⅱ (3 年前期 栄養学科) 総合演習Ⅰ (3 年前期 栄養学科) 総合演習Ⅱ (4 年前期 栄養学科) 応用栄養学実習 (3 年後期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ (4 年前後期 栄養学科) 臨地実習Ⅰ (3 年後期 栄養学科) 実践活動 (3 年後期 栄養学科) 栄養学概説 (1 年後期 栄養学科) 母子栄養学 (前期 助産別科) 栄養学 (2 年後期 福祉学科) こどもの食と栄養 (2 年後期 短期大学部保育科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説 】</p> <p>今年度は、応用栄養学Ⅰ以外は遠隔講義を実施した。遠隔講義であれ、これまでの講義スタイルを出来るだけ変更せずに講義を展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1 の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し (遠隔講義ではパワーポイント上に手書きにて図式化し)、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 <p>以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。</p>

授業科目名【 応用栄養学実習 】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。今年度は対面での実習が可能であったので、示範の際、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。コロナ禍のため、調理作業中の接触や試食の時間を短くする必要があり、学生は少人数制で重点献立のみの調理とした。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。

授業科目名【 総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ 】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言をメールおよび meet で行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設している国家試験対策講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】

視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

授業科目名【 栄養学 福祉学科 】

対象が福祉学科で養護教諭を目指す学生たちのため、栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り噛み砕いて教授するように努力した。毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに感想や質問を書いてくる学生たちが多く、その質問に必ず回答し、返却した。

授業科目名【 実践活動（3年生後期～4年前期-12月まで） 】

2020年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2022年度も、看護・福祉・栄養の3学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児40名、幼児80名、学童30名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3学科の学生たちが協力して実施した。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。

授業科目名【 こどもの食と栄養 短期大学部保育科 】

短大部2年生の科目である。講義・演習・調理実習を含め授業を展開した。乳幼児期の子どもたちにとって食べる事の重要性（食育の基礎）を保育所で培うことがとても重要であるため、保育科の学生たちが、食や栄養に関し、少しでも興味を持ってもらうことが出来るように、福祉学科同様、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限りで噛み砕いて説明した。食育発表などの演習や、調理実習を組み込み、グループで協力しあい、楽しみながら演習・実習を進めていくことが出来るように授業の展開等に努力した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本栄養・食糧学会 日本スポーツ栄養学会 日本癌学会 日本分子生物学会 日本 DOHaD 学会		2002年4月～現在に至る 2002年4月～現在に至る 2002年11月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2010年6月～現在に至る 2012年9月～現在に至る 2022年8月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会発表) Relationship between changes in body mass index and eating habits of children aged 1.5–3 years	共	2022. 12	ICN: International Congress Nutrition in Tokyo 2022	①乳児期のカウプ指数が減少から増加に転ずる現象を adiposity rebound (AR) とよび、AR が起こる時期が幼児期に早いものほど若年成人での肥満や耐糖能異常等のリスクが高くなることが明らかにされている。早期 AR の背景となる母児の生活習慣に関する因子を明らかにし、小児肥満予防対策の基礎資料を得るため、乳幼児健康診査で得られるデータを活用し、乳幼児期の子どもとその母親の生活習慣及び食知識・態度に焦点を当て、早期 AR との関連を検討した。 ②Sakaida. Y., Amamoto. R., Iwahashi. A., Tsujimoto, Y., Hirotsu. K., Fukumura. T., Yoshita. K.)
				2022年度教育研究業績 (2023. 3. 現在) 学会発表 1 (内訳 単0 , 共 1)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位: 円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員（北九州市こども家庭局） ・北九州市小児保健研究会 ・福岡県保育協会 研修会 ・福岡県栄養士会 研究教育事業部 ・福岡市私立保育士会 区別研究会 給食グループ 	<ul style="list-style-type: none"> 構成員 理事 講師 連絡係（本学） 講師・アドバイザー 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年12月2日 2021年8月～現在に至る 2022年7月13日 2021年10月19日 2022年4月～2023年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野） ・入試 委員 ・国家試験対策委員 ・動物実験委員会 委員 ・ほほえみ project(ほほえみの会 2014年4月～2020年3月活動終了からの後継 project) ・上野千鶴子講演会 実行スタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年8月～現在に至る 2022年4月～2023年3月 2020年4月～現在に至る 2019年4月～現在に至る 2021年6月～現在に至る 2022年7月～2022年11月23日（講演日）